

基準 A (独自)	地域の核となる大学の役割
-----------	--------------

基準項目	A-1 地域の核となる大学の役割に関する方針の明確化と学内外への周知 (情報の共有)
評価結果 (自己判定)	基準項目 A-1 を満たしている。
判定理由 (事実の説明)	<p>A-1-① 使命・目的に基づき地域の核となる大学の役割に関する方針の明確化と学内外への周知</p> <p>本学は、建学の精神に基づく使命・目的及び教育目的をより分かりやすい形で全教職員に示し、今後の具体的な大学運営指針とするために、「兵庫大学の使命 (ミッション)」を定めた。</p> <p>その中の 1 つにある「地域の生涯学習機会の拠点として社会人の受入れ推進と地域社会への貢献をめざす。」を達成するため、地域と共に生き、共に学ぶ大学として、「生涯学習機会の拠点確立」と「地域社会との連携促進」を掲げ、公開講座の充実や社会人の受け入れ推進、地域行事への積極的な参加推進、施設などの開放を積極的に行なっている。</p> <p>方針や各事業の内容については、その都度大学運営会議にて報告を行うことで学内への周知、情報共有に努めている。</p> <p>また、学外へはそれらの情報を「兵庫大学公式ウェブサイト」に掲載することで周知を図っている。</p>
改善・向上方策 (将来計画)	<p>今後は、地域連携事業のさらなる拡充を目指し、積極的な情報発信を継続して行なうとともに、こちらからも事業提案を行なっていく。</p>
根拠となる資料 (エビデンス)	<p>兵庫大学公式ウェブサイト「第 2 次中期計画『Vision2019』」 http://www.hyogo-dai.ac.jp/guide/shokai/pdf/Vision2019_PDF.pdf</p> <p>兵庫大学公式ウェブサイト「エクステンション・カレッジ」 http://www.hyogo-dai.ac.jp/guide/shokai/pdf/Vision2019_PDF.pdf</p>

基準項目	A-2 地域の核となる大学の具体的な役割の内容
評価結果 (自己判定)	基準項目 A-2 を満たしている。
判定理由 (事実の説明)	<p>A-2-① 地域における生涯学習の拠点となる活動 (エクステンション・カレッジ事業)</p> <p>A-1 で述べたとおり、「兵庫大学の使命 (ミッション)」において、「地域の生涯学習機会の拠点として社会人の受け入れ推進と地域社会への貢献」を掲げ、平成 26 (2014) 年 3 月より開設した「エクステンション・カレッジ」を中心に公開講座などの地域志向の諸活動を展開している。</p> <p>生涯学習事業については、建学の精神である「和」の醸成のための「仏教入門講座」をはじめ、健康増進など生活の基礎となる講座としての「料理教室」、「介護予防講座」、0～2 歳児と保護者のより良い関係づくりのために遊びの場を提供する「こども大学」などを開講してきた。</p> <p>この公開講座は、学生の学びの場としての役割も担っている。学生が各種講座のスタッフとして参加し、さまざまな年齢層の地域住民と触れ合うことは、正課授業や同世代の学生同士の関わりからは得ることのできない、貴重な経験となっている。</p> <hr/> <p>A-2-② 地域での学びや活動 (課程外教育、ボランティアを含む) を通じての学生の成長</p> <p>学生の成長を促す目的で、学生主体による地域での学びや活動紹介の機会を積極的に設けている。加古川市長をはじめ本学と強い関わりのある地域の方々を招いて例年 8 月に実施している「大学と地域との連携推進懇談会」において、「学生の、学生による、学生のための」懇談会と銘打ち、司会、地域貢献の事例報告であるプレゼンテーション、地域の課題について話し合うワークショップ及び、教育研究活動の展示ブースでの紹介等を学生が担当するなど、地域貢献に関する取り組み発表を学生主体で行なっている。</p> <p>また、「熟議 in 兵庫大学」では、高校生、本学学生及び地域住民が、地域課題を共有しながら、課題解決に向けて話し合うワークショップを実施し、地域活性化をテーマに世代間交流を図っている。</p> <p>加えて、学生及び教職員のボランティア活動の支援を目的として、平成 27 (2015) 年 6 月に、「ボランティアセンター」を設置し、地域の中の様々な企画に学生が参加している。</p> <hr/> <p>A-2-③ 加古川市をはじめとする近隣の自治体や各種団体、及び企業との連携</p> <p>本学では、地域の活性化と相互の人材育成を目的とし、平成 18 (2006) 年より行政機関、企業、各種団体等と連携協定を締結した。</p> <p>また、その協定に基づき、地方自治体や産業界との協力体制を構築し、地の拠点としての役割を果たしている。</p> <p>加えて、地域の高等学校とも連携協定を締結し、本学教員が高等学校に出向いて講義を行なう出前講義「アカデミック・レクチャー」や、高校生が実際に本学に来て受講する「特別授業」、「施設見学」など様々な活動を展開している。</p>

<p>改善・向上方策 (将来計画)</p>	<p>地域における生涯学習機会の拠点形成を推進するため、前述のとおり、平成 26 (2014) 年 3 月に「エクステンション・カレッジ」を開設した。</p> <p>エクステンション・カレッジは、シティズンシップ教育を学びの基礎に置き、各種講座で獲得した知識や技術をもとに、市民がよりよい社会づくりに参加・貢献するための学習プログラムを提供することを目的とした生涯学習機関である。大学の附置機関ならではの学びと実践により、個人ひとり一人が地域での役割を見出し、まちづくりに積極的に取り組めるよう、幅広い教育機会を提供することを計画している。</p> <p>今後は、連携協定を締結した各種団体をはじめ、地域とともに成長を遂げ、地域に根ざし、地域に愛される大学として、より広範な連携活動を進めていく。</p>
<p>根拠となる資料 (エビデンス)</p>	<p>兵庫大学公式ウェブサイト「エクステンション・カレッジ」 http://www.hyogo-dai.ac.jp/guide/shokai/pdf/Vision2019_PDF.pdf</p>
	<p>兵庫大学公式ウェブサイト「社会貢献・生涯学習」 http://www.hyogo-dai.ac.jp/social/</p>

基準項目	A-3 大学の役割に関する評価
評価結果 (自己判定)	基準項目 A-3 を満たしている。
判定理由 (事実の説明)	<p>A-3-① 地域での学びや活動に対する学生への評価 (評価方法の確立を含む)</p> <p>A-2 で述べたように、本学では学生の積極的な地域連携活動を実施している。その成果は前述の通り「大学と地域との連携推進懇談会」及び「熟議 in 兵庫大学」において公表しているが、これら活動に対する自己評価(検証)を行なうため、参加学生に対する事前・事後研修を実施している。行事の前後において、参加学生の意識がどのように変化し、成長したのかを検証するため、アンケート調査を実施している。アンケートは記名式で行ない、「自主性」「思考力」「実行力」「対応力」「交渉力」「会話力」「計画力」「規律性」「運営力」「貢献性」の 10 項目の能力指標を測定し、本学独自で開発した「自己認識シート」を用いて、学生が自己評価を行なう。</p> <p>アンケート結果は集計され、行事を通じて学生がどのように変化、成長したのかを分析し、その結果は大学の最高審議機関である大学運営会議において報告され、全学的に確認を行なっている。</p> <hr/> <p>A-3-② 生涯学習、産学官連携等、地域での活動に対する大学内部及び、外部評価(評価方法の確立、PDCA サイクルの実現を含む)、学生の成長</p> <p>「自己認識シート」では、学生の学びを、事前研修(P)→行事への参加(D)→事後研修(C)→今後の学生生活(A)のサイクルで捉える。行事参加に際し、学生それぞれが目標設定を行ない、事前研修で得た知識を行事の中で実践し、事後研修において振り返りを行なうことで、自己の成長や今後補っていくべき項目を認識することができる仕組みになっている。こうしたことから、大学内部での評価方法や、PDCA サイクルは確立されているといえる。</p> <p>「自己認識シート」を用いることで、同世代での学生との触れ合いのみならず、幅広い年齢層の地域住民と触れ合うことで、多様な考え方や、自己の立ち位置などを客観的に見つめ直すことができるようになり、ひいては、異なる考え方や他者を認める心を涵養することにも繋がる。「自己認識シート」によって、自己の力と他者の力が集結し、社会が構成されていることを学ぶ。事前事後研修を含めた諸行事への参加によって、参加学生には学びに対する意識や姿勢などに変化が見られ、周囲の学生へも良い影響を与えることが期待できる。</p>
改善・向上方策 (将来計画)	<p>今後の課題として、学生の地域での学びや活動に対する外部評価の導入、積極的な産学官連携等の実施が挙げられる。また、教育課程における地域志向の学びの位置づけについても、今後の検討が必要であると認識している。学生の地域での学びや活動に対する外部評価については、諸事業毎に関係機関との調整が必要となるが、本節で掲げた大学の担うべき役割、教育的観点に鑑みれば、さらなる導入に向けた検討が必要になる。</p>

<p>根拠となる資料 (エビデンス)</p>	<p>兵庫大学公式ウェブサイト「社会貢献・生涯学習」 http://www.hyogo-dai.ac.jp/social/</p>
----------------------------	--

<p>基準 A の 自己評価</p>	<p>「地域の核となる大学」としての役割を果たすため、第 1 次中期計画（実施期間：平成 22（2010）年度～平成 26（2014）年度）及び第 2 次中期計画（実施期間：平成 27（2015）年度～平成 31（2019）年度）で、社会貢献の領域における学長方針として、「生涯学習機会の拠点確立」「地域社会との連携促進」の 2 つが掲げられた。</p> <p>この方針に基づき、公開講座の充実、科目等履修生・社会人の受入れ、施設利用といった大学開放を推進し、エクステンション・カレッジ、ボランティアセンターの設置し、学生ボランティアの地域行事への積極的な参加や産官学連携の強化、自治体等への講師・委員派遣など、本学の学生・教職員が地域に出向き地域の活性化を図る諸活動にも協力・参画している。</p> <p>加えて、学科が主体的に実施している地域を対象とした取組事業や「大学と地域との連携推進懇談会」及び「熟議 in 兵庫大学」は、教職員はもとより、学生にとっても有益な実践の学びの場としても活用されている。</p> <p>このように、地域住民と本学関係者は学内外で、さまざまな交流を図っており、本学の有する知的資源や施設等の開放を行なうことで、地域の活性化や課題解決を共に考える仕組みを確立している。</p> <p>以上のことから、基準 A を満たしていると自己評価する。</p>
------------------------	---